

1 業務概要

1.1 業務目的

本事業は、スマート林業実施の前提として必要となる現在及び将来の森林資源量を的確に推測するため、昭和40年代に作成された国有林の現行の収穫予想表に替わり、新たな収穫予想表（以下「成長予測モデル」という。）を整備し、これにより国有林野事業の業務改善を進めるとともに、国有林の各種情報のオープン化を通じ、地域における林業の成長産業化に積極的に貢献することを目指すものである。

1.2 業務の履行期間

業務の履行期間は令和3年7月29日～令和4年3月11日である。

1.3 業務項目

本業務の実施項目は下記の通りである。

なお、現行の収穫予想表は昭和40年代の施業をベースにして作成されているが、現在では、当時と林齢構成のみならず、伐採齢の長期化や高齢級間伐の導入など施業状況が異なっている。そのため、林分材積に大きな影響を与える施業が行われる壮齢林以降において現行収穫予想表を基に成長量・蓄積量を見ると、現実林分との乖離が大きくなる傾向がある。以下の内容は、このような点に留意して実施した。

1) 現行収穫予想表の適合性の検討・成長予測モデルの検討・整備

- ① 現行の収穫予想表の整理・分析
- ② 現実林分のデータ把握
- ③ 周辺民有林の最新収穫表の整理
- ④ 成長予測モデルの検討・整備

2) 検討委員会の開催

3) 報告書の作成

1.4 業務実施フロー

本業務の実施フローについて図 1-1 に示す。

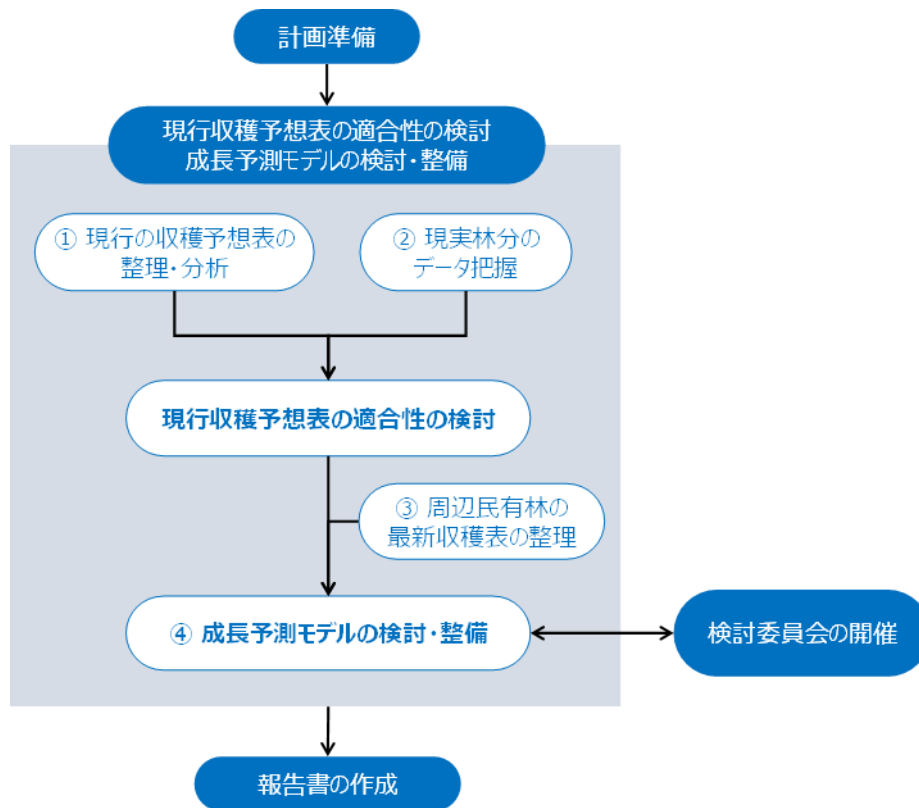


図 1-1 業務フロー

1.5 業務実施範囲

本業務は関東森林管理局管轄エリア（図 1-2）¹を対象として、現行収穫予想表等と現実林分との適合・乖離状況等について分析を行い、成長予測モデルの検討・整備を行った。



図 1-2 関東森林管理局管内森林計画区位置図

¹林野庁 Web ページより引用

(<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/apply/publicsale/keikaku/110601.html>)